

基本計画

挑戦

理念ごとの計画⑦ 誰もが生きがいを持ち、
夢や目標に向かって踏み出せるまち



豊明中学校 3年
青木 朝飛さん

新しいエネルギーを手に入れて地球外で新しい豊明をつくります。人工衛星の中では、老人ホームやスーパー、病院などがあり、重力もとても軽いので、お年寄りには良いと思います。

めざすまちの姿



33. 高齢者、障がい者など誰でも居場所と出番があり、経験や知識を活かして働き、収入と生きがいを得ている

■現状と課題

これまで日本では、高齢者や障がい者は社会的弱者として福祉の対象と捉えられる傾向が強くありました。しかし、高齢者や障がい者をサービスの受け手とするのではなく、ともに生きるという考えのもと、生きがいづくりや雇用創出により、精神的・経済的自立につながります。人口減少や少子高齢化を背景に、企業における多様な人材の活用や地域福祉の担い手としても高齢者や障がい者への期待が高まっています。

本市では、高齢者ボランティアポイント制度、住民同士の助け合いによる「おたがいさまセンターちょっと」事業、シルバー人材センターの活動などから、高齢者の活躍の機会を広げています。今後は、多様な就業ニーズに即した就業機会の確保や雇用環境の整備などに取り組む企業への支援を進めていく必要があります。

また、障がい者の雇用については、法定雇用率が2.0%（常用労働者数50人以上に適用）に引き上げられましたが、現状は仕事が限られています。そのため、雇用主に対して求人情報の提供や職場での介助、短時間勤務への配慮など理解を求めるとともに、相談支援事業、就労移行事業を強化し、障がい者の適性を見極めながら働き方の選択ができるようにしていくことが必要です。

■まちづくり指標

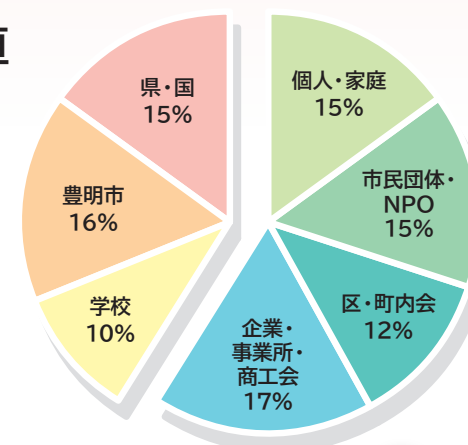
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

		基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めざそう値	
				5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1	自分の働き方に満足している高齢者の割合	87.7%	89.1%	90.2%	92.6%
	自分の働き方に満足している障がい者の割合	64.2%	74.8%	69.9%	75.9%
2	高齢者、障がい者を雇用している企業・事業所数	49	47	60	71
3	働く意欲をもっている高齢者の割合	55.4%	52.3%	63.0%	69.8%
	働く意欲をもっている障がい者の割合	70.3%	65.2%	76.4%	81.4%
4	自分の経験や知識を活かすことができていると思う高齢者の割合	86.3%	82.2%	89.6%	91.9%
	自分の経験や知識を活かすことができていると思う障がい者の割合	63.5%	70.9%	68.5%	73.3%

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

■役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 高齢者、障がい者の活躍の機会や場を増やし、収入と生きがいを得ることができる環境をつくる

【中施策】

高齢者、障がい者の活躍の機会や場をつくる

高齢者、障がい者が経験や知識を活かして働きやすい環境をつくる

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連携

市民ができること

- イベントや行事などさまざまな活動で、高齢者や障がい者など誰もが担い手になれるように出番をつくるができます。
- コミュニティビジネス^(※)など身近なところで仕事をつくり、雇用の機会を増やしていくことができます。

※地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取り組み



豊明福祉会 スマイル

めざすまちの姿



34. 若い世代も地域で活動し、地域の自治力が高まっている

■現状と課題

本市では、27の区と128の町内会があり、地域活動を支えています。しかし、組織を支えるメンバーの高齢化や後継者不足、町内会加入率の低下など、さまざまな課題を抱えています。また、社会構造の変化や価値観の多様化により、それまで地域組織が担っていた生活と密接に関係した役割が行政サービスに置き換わってしまったことも、地域の自治力低下と無縁ではありません。

このような状況を受けて、本市では地域一括交付金制度や区長連合会の設立などにより、地域の自主性を強化する施策を促進してきました。また、市内の大学や高校も、教育の一環として学生や生徒の地域活動への参加を促進しています。今後は、若者の地域活動に取り組む機会の創出に協力し、地域活動の理解を深め、次世代の担い手となるよう、若者の主体的な活動を支援していくことが必要です。

本市では、豊明市青少年健全育成推進員や豊明市青少年健全育成推進委員会地区委員長と連携し、若者、とりわけ中学生を地域行事へ参加・参画させる取り組みを推進してきました。中学生までの間に地域との関わりを持つことで、その後の継続した関わりを促しています。

■まちづくり指標

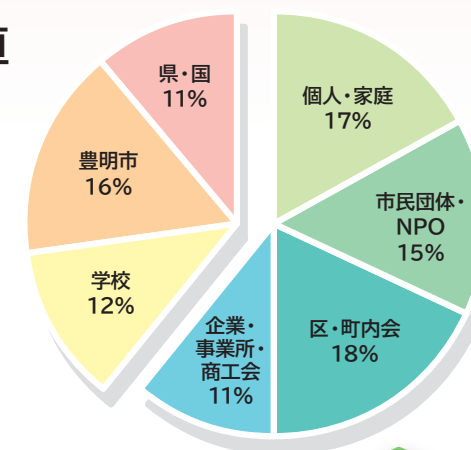
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

		基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めざそう値	
				5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1	地域の活動に参加している若者の割合	67.8%	54.8%	73.7%	79.4%
2	自分たちの考えが地域の活動に取り入れられていると思う若者の割合	11.1%	16.1%	22.2%	34.0%
3	若い世代の地域での活動を尊重し、応援している65歳以上の人の割合	57.0%	60.7%	65.8%	73.2%
4	町内会の加入率	78.0%	72.5%	83.0%	72.5%

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

■役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 若い世代が地域活動で活躍し、地域の自治力を高める

【中施策】

若者が地域で活動しやすい環境をつくる

若者が活躍できる機会や場をつくり、若者の主体的な活動を支援する

若者が地域活動に興味を持つ環境をつくる

世代を超えて連携し、地域の問題を自ら解決する環境をつくる

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連携

市民ができること

●地域のイベントやサークル活動など若い世代に地域の情報を伝えることができます。

●若い世代が自ら地域でイベントなどを企画・実施できるように、地域が応援することができます。

●町内会で青年部などを作り、役割を任せることで、若い世代の力を活かすことができます。



高校生による壁画製作

めざすまちの姿



35. 若い人が豊明市を自分たちのまちとして愛着をもち、新しい感性を活かし、まちづくりが進められている

■現状と課題

近年、行政主導のまちづくりから市民が主役のまちづくりへと変化しています。この背景には、多様化する市民ニーズに対応するためには、行政だけでは限界があり、市民とともに取り組むことで解決を図っていくというねらいがあります。一方で、市民が主役のまちづくりを進める上で、若い人の参画が得られにくいという課題があります。要因として、仕事や子育てによる時間的制約があること、参加のきっかけや情報の不足などがあります。若い人の柔軟な発想や意見をいかにこれからのまちづくりに活かしていくかが問われています。

例えば、夏休みに帰省した人が、豊明夏まつりの花火を見上げて「豊明に帰ってきたんだなあ。」とホッとした気持ちになれる。この花火は夏まつり実行委員会の青年会議所会員や商工会青年部の人たちが裏方となって運営しているものです。楽しみにしている皆さんのために、40年以上も受け継がれていますが、近年では新しい担い手の確保が課題となってきています。

本市では、市民活動を支援する制度として「市民提案型まちづくり事業交付金」を実施しています。若い人を中心とした団体を対象とした「ヤングコース」などの現行の支援を含め、若い人の取り組みの活性化に向けてニーズに合った支援やそれらの周知を検討していく必要があります。

■まちづくり指標

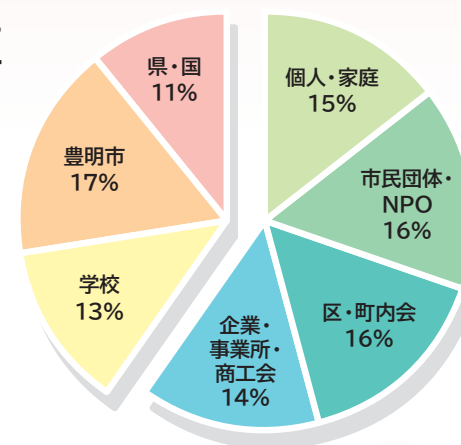
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

		基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めざそう値	
				5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1	豊明が大好きな若者の割合	74.0%	66.6%	79.9%	85.4%
2	まちづくりに参加できていると感じている若者の割合	16.2%	10.7%	26.1%	36.7%
3	市民提案型まちづくり事業交付金の交付団体数	11	10	16	21

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

■役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 若い人の豊明市への愛着を深め、新しい感性を活かしたまちづくりを推進する

【中施策】

若い人の豊明市に対する愛着や関心を深める

若い人がまちづくりに関わる機会や場を増やす

若い人が新しい感性を活かしてまちづくりに参加できるよう支援する

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連携

市民ができること

- 豊明に愛着をもってもらうために、学校や地域の教室などで、若い人が豊明の歴史や文化を学ぶ機会を増やすことができます。
- まちづくりの意思決定の場に若い人が積極的に参加し、意見することができます。
- 若い人や子どもが参加しやすい活動やイベントを活発に行うことができます。



協働推進委員会

めざすまちの姿



36. 女性が職場や地域で活躍し続けている

■現状と課題

少子高齢化や地域のつながりの希薄化、人口減少に直面する地域にとって、子育てや介護、労働力の確保などさまざまな課題への対応を迫られています。このような状況において、あらゆる人が役割をもって活躍していくことが重要です。とりわけ、すべての分野において男女共同参画の視点を持ち、女性がその能力を十分に発揮できる環境をつくることは、新たな視点や発想による課題解決につながっていくと考えられています。国においては、毎年、女性活躍加速のための重点方針を定め、女性が輝く社会に向けた取り組みが進められています。

本市が行った意識調査（令和2年）では、各分野における男性優遇の状況や、男性は「仕事」、女性は「家庭」を優先せざるを得ない状況がうかがえます。今後、女性の活躍を促進していくためには、学校教育での男女平等教育の推進や市民への男女共同参画の啓発が必要です。また、企業などに対する具体的な働きかけとして、女性のニーズに応じた就労形態や育児休業・介護休暇などが取りやすい職場環境づくりに取り組んでいる企業への支援を行い、仕事と家庭との調和（ワーク・ライフ・バランス）ができる環境を整備する必要があります。

■まちづくり指標

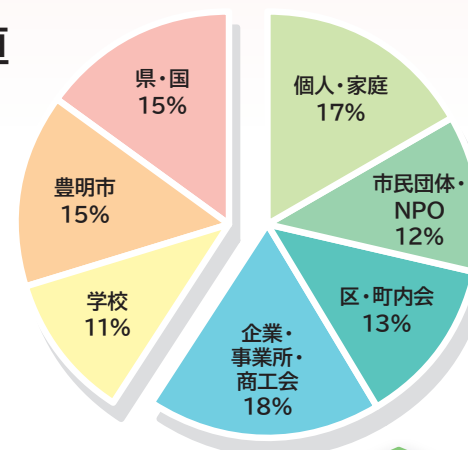
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

		基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めざそう値	
				5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1	職場で働きやすいと感じている女性の割合	35.4%	50.0%	45.4%	56.7%
2	育児休暇後に継続して働き続けている女性の割合	70.9%	72.3%	76.9%	82.3%
3	市内企業における女性管理職の割合	10.2%	11.9%	17.3%	24.4%
4	町内会長・区長に占める女性の割合	6.0%	16.1%	12.7%	18.8%
5	男性の育児(介護)休暇取得者数	1人	11人	9人	18人
6	男性一人あたりの平均1日家事時間	70.6分	90.5分	90.6分	110.1分

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

■役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 **女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる**

【中施策】

職場や地域において女性の活躍の場を増やす

女性が社会で活躍する意識を向上させる

ワーク・ライフ・バランスのための環境・制度を充実させる

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連携

市民ができること

- 男性は、男女共同参画に関するセミナーに参加し、男女共同参画についての意識を高めることができます。
- 女性が活躍できるようなテーマでイベントを開催することができます。
- 市内や豊明市近郊で、女性が働ける企業の紹介や必要な資格を説明するためのセミナーを開催することができます。



めざすまちの姿



37. 子どもが夢を持ち、将来グローバルに活躍できる人材に育っている

■現状と課題

日本と世界各地の地域文化や芸術、特色を知り、ローカルでも活躍できる「グローバル人材」の育成に国も取り組み始めています。「地方創生」の人材発掘と育成、今後急速に進むデジタル化に向けてもグローバル人材の重要性は高まっています。

子どもたちが、これからの社会を生きていくために意欲的かつ継続的な職業観を持つことができるように、中学校においては「社会体験」が行われています。学校を離れて、実際の社会の中で活動することにより、自分自身を見つめる良い機会となっています。今後は、地域社会と連携した「職場体験」を小学校で実施し、中学校では更にグローバルな視点で「職場体験」が実施できる環境をつくることが重要です。また、子どもたちが異文化に触れる機会、さらには異文化を考える上で自分の住んでいる国や地域の良いところを見つける機会を増やしていく必要があります。

■まちづくり指標

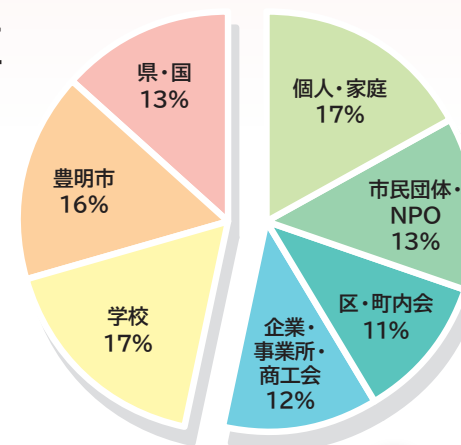
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

		基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めざそう値	
				5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1	将来に夢をもっている子どもの割合	68.9%	62.7%	75.4%	82.2%
2	自分の地域や国のことに誇りを持っている市民の割合	55.9%	61.7%	64.7%	73.2%
3	いろんな国の人々とコミュニケーションをとろうとしている市民の割合	30.4%	35.8%	40.7%	51.2%
4	豊明市で育った人が活躍していると思う市民の割合	22.2%	27.4%	31.1%	40.2%

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

■役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 将来グローバルに活躍できる子どもを育てる

【中施策】

異文化を理解し、言葉の壁を越えて主張できるようにする

夢を実現するための支援をする

夢を見つけるための環境をつくる

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連携

市民ができること

- グローバルに活躍する大人の姿を子どもに見せることができます。
- 子どもに役割を持たせ、地域で色々なことを体験させることができます。
- 大人は子どもの夢を応援することができます。



メダリスト運動講座

めざすまちの姿



38. すべての子どもが質の高い学びに参加し、 生きるための学力が向上している

■現状と課題

小・中学校の学習指導要領が改訂され、新しい時代を生きる子どもたちに必要な力が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理されました。そして、主体的・対話的で深い学びの視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業改善していくことが大きな課題となっています。

これからの社会は目まぐるしく変化し、予測困難な時代となります。今後、新しい社会を担う子どもたちに「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動する力」を身に付けさせるために、本市では、「学びの共同体」の理論を取り入れた「協同の学び推進事業」を平成27年度からスタートし、令和元年度には市内全小中学校で取り組んでいます。

質の高い学びを実現するために、授業の中で指導者が一方的に説明するだけでなく、子ども同士が考えや思いを聴き合うことを大切にしたい授業改善を進めていきます。また、より難しい課題にも協同で取り組ませることで、子どもたちが主体的に、夢中になって学ぶ姿を目指した実践を進めています。

■まちづくり指標

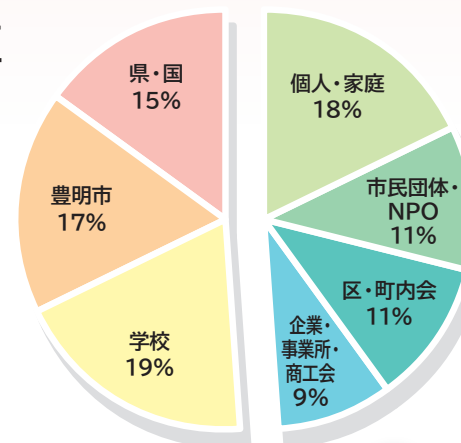
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

		基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めざそう値	
				5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1	学校で学ぶことが楽しいと思う子どもの割合	66.6%	72.1%	74.1%	81.7%
2	悪いことを正されたり、いいところを褒められたりして自分の行動が変わったと感じる子どもの割合	76.6%	82.9%	81.4%	86.2%
3	学習と日常生活につながりを感じている子どもの割合	77.1%	77.1%	81.6%	86.1%
4	授業から置いてきぼりになっていない子どもの割合	57.4%	63.2%	66.6%	75.1%
5	前よりも勉強や運動ができるようになったと思う子どもの割合	79.7%	82.9%	84.2%	88.3%
6	学校生活に満足している子どもの割合	53.0%	52.5%	63.8%	72.7%

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

■役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 **子どもが質の高い学びに参加し、生きるための学力が向上する環境をつくる**

【中施策】

自ら学ぶ意欲を高める

学校で質の高い教育を受けられる環境を充実させる

学力だけでなく社会性や行動力のある子どもを育成する

親への支援を充実する

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連携

市民ができること

- 体験教室への参加や大人の手伝いなど、子どもに様々な経験をさせることができます。
- 学校の先生だけでなく、誰もが子どもを教える立場であることを自覚し、努力することができます。
- 学校の先生とのコミュニケーションを図り、学校教育に協力することができます。



めざすまちの姿



39. 若い人たちが地元で働ける

■現状と課題

有効求人倍率は改善が見られるものの雇用形態の多様化による非正規雇用労働者の増加、さらに求職者と求人者のニーズが合致しないという、いわゆる雇用のミスマッチなど、雇用をめぐるさまざまな課題が発生しています。

今後は、若い人が市内事業所に就職してもらえるよう地元企業の認知度を上げる取り組みとして、企業説明会を行政・学校・企業・関係団体と連携して実施し、若い人への情報提供など地元企業と結びつける仕組みづくりを支援する必要があります。企業には、若い人が地元企業で就職したい、働き続けたいと思えるように、労働条件や労働環境を整備し、働きやすい職場づくりが求められています。また、若い人の新規起業や新規就農に対しても、行政・企業・金融機関などが連携した支援が必要です。

■まちづくり指標

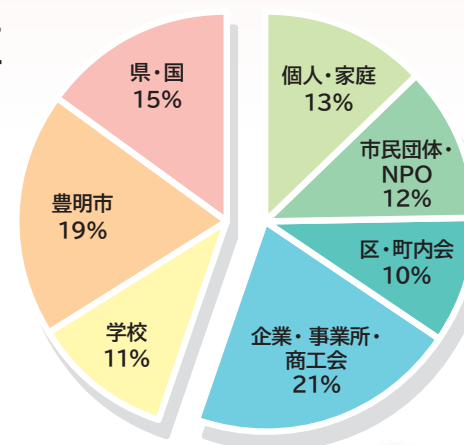
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

		基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めざそう値	
				5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1	有効求人倍率	1.16倍	1.68倍	1.34倍	1.44倍
2	市内在住者の市内就業者数	1,529人	1,098人	1,775人	2,014人
3	起業・創業件数(50代以下)	80件	38件	100件	124件
4	市内で働くための情報が得やすいと思っている若者の割合(50代以下)	7.8%	15.3%	19.3%	30.8%
5	市内在住者で市内で働きたいと思っている若者の割合	48.3%	46.5%	55.8%	62.8%

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

■役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】若い人たちの地元での就労を促進する

【中施策】

若い人たちの働く意欲・能力を高める

若い人たちが働きやすい労働環境づくりを支援する

若い人たちと企業をつなぐ仕組みをつくる

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連携

市民ができること

- 産学交流や職場体験を行い、若者に地元企業について知ってもらう機会を増やすことができます。
- 企業・学校が連携し、若者の地元での就職を促進することができます。
- 企業や金融機関、NPOなどが連携し、起業推進フォーラムを立ち上げるなど、若者の起業を応援することができます。



創業支援セミナー

めざすまちの姿



40. 市長や議会、行政は、まちを良くしていくために外からの知識を吸収し、失敗を恐れず果敢にチャレンジしている

■現状と課題

全国各地の自治体において、創意工夫による“住民満足度”の向上に挑戦する取り組みが始まっています。外からの知識を参考にするとともに、課題解決の方策は現場にあり、当事者意識をもって取り組むことで未来を切り拓くことができます。

本市では、他自治体等の優れた施策・事例を調査・研究し、本市の文化に即した施策に転換・実施できる職員の育成を目的として、政策課題実務研修を公募制により実施しています。また、人事評価において挑戦加点制度を設けたり、評価項目に「創造・改善成果」を追加したりするなど、困難な仕事に積極的にチャレンジできる人材の育成を目指しています。



職員研修

■まちづくり指標

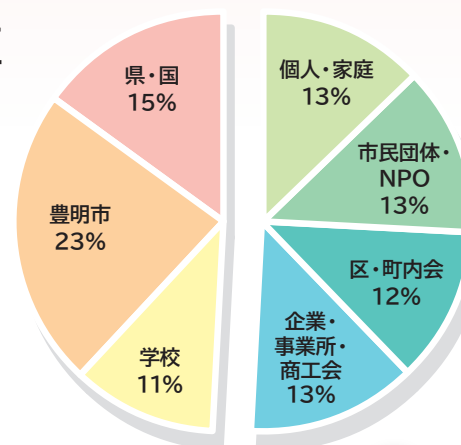
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

		基準値 (平成26年度)	現状値 (令和元年度)	めざそう値	
				5年後 (令和2年度)	10年後 (令和7年度)
1	先を見据えた仕事ができている市職員の割合	49.4%	72.9%	60.7%	83.0%
2	他団体からの視察を受け入れた回数	28回	134回	37回	134回
3	議員の政策立案能力が高まっていると思う市民の割合	11.0%	25.3%	24.3%	37.5%
4	市長・市職員の政策立案能力が高まっていると思う市民の割合	21.9%	43.6%	34.5%	47.8%

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

■役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 まちを良くしていくために情報を収集し、失敗を恐れずチャレンジする

【中施策】

常に情報を収集し、学ぶ環境をつくる

失敗を恐れずチャレンジできる人材を増やす

チャレンジしやすい環境をつくる

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

連携

市民ができること

- 民間企業で働く市民のノウハウを積極的に市長・行政に提供し、活用できるように活動することができます。
- 民間を活用するなどのアイデアを提言し、使命感を持って行政と共に実行していくことができます。
- 企業・NPOは積極的に市職員を受け入れ、民間での業務を経験できる機会を提供することができます。